

【エクアドル経済:2022年12月】

経済指標

(1)経済成長率予測

シティ・リサーチはエクアドルの経済成長率につき、2022年は2.5%、2023年は1%、そして2024年には2%に鈍化すると予測している。エクアドルを担当するディアス氏は、同国のマクロ経済の数値が改善された一方、投資家らは内政の不確実性を恐れており、次期政権により財政政策の秩序が失われる可能性を危惧している旨指摘した。さらに、ラッソ政権に関し、野党は非常に大きな勢力である一方、明確なリーダーシップに欠けており、大統領の支持率も低い点強調した。

(2)統一基本給の引き上げ

政府は2023年の統一基本給を2022年より25米ドル高い450米ドルとする旨明らかにした。基本的な生活の維持に必要であると推定される月756.51米ドルに見合った賃上げを望む労働者側と雇用者側の間で合意が得られなかったため、政府が最終決定を行うに至った。なお、アロセメナ経済財務大臣は2023年のエクアドルの経済成長率は中南米地域の平均を上回るとしており、IMFによると、2022年10月現在、エクアドルのインフレ率(4.02%)は2.9%のボリビアに次いで同地域で2番目に低いとしている。

貿易

エクアドル中央銀行は、2022年1月から9月にかけてエクアドルは12トンの金を輸出し、その83%はサモラ・チンチペ県のフルータ・デル・ノルテ鉱山から採掘されたと発表。9月までの金の輸出量は、2021年同時期と比べ50%の伸びを記録している。同鉱山は国内で最も重要な地下金鉱の一つとなっており、カナダのルンディン・ゴールド社が2019年11月より生産を開始している。

原油

(1)一部エビ養殖業者への補助金廃止

ラッソ大統領は大統領令614号を以って、生産面積が30ヘクタールを超えるエビ養殖場に対する燃料補助金の廃止を発表した。これによって節約された資金は社会福祉や医療に充てられる見込み。カンポサノ全国養殖会議所会長は、今回の措置によりエビ1ポンドあたり0.16セント生産コストが増加し、27万5,000人の雇用機会を生み出しているエビ養殖業界全体にとって非常に大きな打撃となる旨コメントしている。

(2)エクアドル原油のスポット販売量増加

エクアドルは2023年に1億1,140万バレルの原油輸出を見込んでいるが、うち約5,290万バレルはすでにペトロチャイナ、ユニペック、ペトロタイランディアといったアジア企業、さらに1,400万バレルはシェル、マラソン、ペトロペルーといった米州企業に送られることが決定している。アジア企業向けの輸出量が全体の47.5%を占めており、そのうちペトロチャイナが30%を占めている。その他輸出可能な約4,450万バレル(昨年比約23%増)は、各国企業との長期契約よりも利益をもたらすスポット販売や市場販売に充てられる見込み。なお、ペトロチャイナと再交渉した原油売買契約については、契約締結時にペトロエクアドルの経営陣がパブロ・ノボア前国際貿易部長を解任するなどして契約プロセスに問題が生じたため、その最終的な詳細については分かっていない。

二国間関係

(1)メキシコとの自由貿易協定交渉

エクアドルとメキシコは、現在貿易協定締結の足かせとなっているバナナ及びエビに関する新提案提出の期限を12月1日としていたが、進展のない状況が続いている。エクアドル側は以前より主要輸出品の参入を求める提案をメキシコ側に行っており、生産貿易投資漁業省は最終的な決定はメキシコ政府の手に委ねられているとし、同問題に関する声明等は発表しない方針である旨明らかにしている。モスケラ・エクアドル・メキシコ商工会議所会頭は、6日、企業代表らが交渉団らんと協議する予定であるとしている。同国との協定締結に向けた交渉は85%終了しており、年内の妥結が見込まれている。

(2)中国との自由貿易協定交渉

エクアドルは中国との貿易協定締結に向けた交渉を進めており、エクアドル政府は12月14日に覚書に署名する旨明らかにしている。中国との間では2,300品目に関し交渉が進められており、5年から20年にわたり各製品に対する減税措置が適用され、繊維製品や家電等のセンシティブな品目については除外される見込み。なお、各国との協定交渉につき国会からは一部懸念の声も挙がっており、国会の経済制度委員会はメキシコ及び中国との交渉の進捗状況について、生産貿易投資漁業省にさらなる情報開示を行うよう要請している。

国際機関

ラッソ大統領は、IMFがエクアドルとの融資プログラムの第6回最終審査を承認し、数日中に7億米ドルの融資を行う旨明らかにした。さらにラッソ大統領は、IMFからの追加融資に加えIDBを含むその他の融資を合わせ約16億米ドルが供与されるとし、国内の財政状況が安定していることを強調した。さらにアロセメナ経済財務大臣は、今回の供与を以ってエクアドルが過去数十年で初めてIMFとのプログラムを無事終えることができる旨コメントしている。なお、2020年時点では25億米ドルであった外貨準備は現在約85億米ドルに達している。